

「子どもたちの抽象画制作体験」——2003松阪ワークショップ

台風一過の8月10日、午後の厳しい日差しの中、子どもたちは松阪市文化財センターに続々と集まってきました。小学生29名、ほとんどキャンセル無しの参加です。

「みんな!ドラえもんを描くとき、どんな風に描く?」講師の大和慎さんの声が会場に響きます。今回のワークショップは、同センターで開催中の移動美術館の作品鑑賞と関連付けた制作という方針をとっています。

大和さんの案内で、色々な表現形態の絵画作品から、それぞれの作者の「きもち」を感じ取っていきます。その後、前述のドラえもんの話になったわけです。「ドラえもんはのびた君たちをいつも見守っているからこーんな感じ」と、大和さんはゆったりした線で、長く伸びた楕円やとがった三角形のキャラクターたちを囲みます。この瞬間お馴染みのマンガの顔ではなく、特別な意味など考えることのなかった単純な線と形が、ドラえもんの心や人柄を表すという、劇的な発想の転換が成されたように思えますが、子どもたちはどう受け止めたのでしょうか。

さて、いよいよ制作です。最初の課題は「自分が最近したこと」を10個書くこと。昨日の夕飯でハンバーグを食べたこと、妹とけんかしたこと…すらすらと書く子、じっくり考えながら書く子、ずいぶん悩んでいる子、など様々です。

ひんやりとした展示室で小休止した後、外に出て制作再開です。書き出したことがらについて、そのときの自分の気持ちや気分を自由な線で形にし、切り抜く課題です。もちろん、気持ちにふさわしい色の画用紙を選んで。これがなかなか大変な作業に思えるのですが、意外にも順調に進めているようです。ドラえもんの話が、子どもたちの発想力を伸びやかにしてくれたのかもしれない。

最後は、切り抜いた「自分のきもち」たちを、B2版



展示室にて 導入の話をする大和さんと聴き入る子どもたち



展示室横の通路にて

の大きなボードに、配置を考え貼りつける課題です。木工用ボンドの扱いに、いづらか苦労しているようでしたが、作品はどんどん完成されていきました。

ずらりと並ぶ子どもたちの抽象画群。ほんの2時間程前には、彼らがかつて意識することの無かった世界が、作品を媒介にしてそこに出現したかのように見えます。それは、なんだかちょっと不思議な光景でした。

今回のワークショップを通じて、子どもたちは、どんな「きもち」を手にしてくれたのでしょうか。「今までにやったことがないやり方で面白かった」、「何か創るのってけっこう楽しいかも」、「とにかく仕上げたから満足」、「暑いけどがんばった」、それとも…? もっとも、作品を創ることの意味や自由さを学んだのは、誰よりも私自身かもしれません。

お世話になりました大和慎さん、松阪市文化財センターの方々、応援スタッフとしてボランティア参加して下さった方々に、心より感謝いたします。(Se)